

## 授業概要

今日「西洋」と呼ばれる文明が、歴史的にどのようにして立ち上がってきたかを、古代地中海世界の解体からヨーロッパ中世社会成立までの過程を中心に講義する。西洋は、近代世界を工業技術や政治経済制度ばかりではなく、文芸や諸科学などでも常にリードしてきた。その基盤は、すでに中世盛期の「グレゴリウス改革」期に形作られていた。そのことを、古代地中海世界の東西に分裂・ゲルマン民族大移動・イスラームの西地中海進出・カロリング帝国の形成・そして「教会＝国家」体制の否定という、古代末期以降の具体的な歴史過程を踏まえながら講じる。

## 授業計画

第1回	講義概要： 「西洋」とはなにか 授業の進め方について
第2回	古代地中海世界①： ローマの二つの顔 ラテン語文化圏とギリシア語文化圏
第3回	古代地中海世界②： 西方ラテン語文化圏の没落と東方ギリシア語文化圏の繁栄
第4回	古代地中海世界③： キリスト教の成長とギリシア語文化圏
第5回	「ヨーロッパ世界」の起源①：ローマニストの考え 「末期古代」の設定
第6回	「ヨーロッパ世界」の起源②：ゲルマニストの考え 「ゲルマン民族移動」の評価
第7回	「ヨーロッパ世界」の起源③：アンリ・ピレンヌの考え イスラーム侵攻の評価
第8回	「ヨーロッパ世界」の起源④：レオポール・ジェニコの解釈
第9回	「ヨーロッパ世界」の形成①：カロリング家とローマ教会
第10回	「ヨーロッパ世界」の形成②：ピピンとボニファティウス 「カロリング・クーデタ」
第11回	「ヨーロッパ世界」の形成③：カール大帝の「西ローマ皇帝」戴冠
第12回	「ヨーロッパ世界」の確立①：カロリング帝国の統治体制 世俗と教会
第13回	「ヨーロッパ世界」の確立②：ノルマン侵攻と帝国の分裂
第14回	「ヨーロッパ世界」の確立③：「教権制の時代」とグレゴリウス改革
第15回	「ヨーロッパ世界」の確立④：世俗国家の自立と「諸国家並存体制」近代への展望
第16回	筆記試験実施 論述式

## 到達目標

西洋と呼ばれる文明の特徴と、その形成過程とを自分の言葉で説明できる。現代社会において「西洋」的な価値が果たしている意義・役割とその課題について、自分なりに問題を提起できること。

## 履修上の注意

高校「世界史」や「地理」の内容をよく学習し直しておくこと。また「西洋史学入門」をあわせて受講することを推奨する。理解の深化のため重要文献を題材としたレポートの作成（必須）が求められる。また知識定着度確認のため小テストを合わせて5回実施するので、もれなく受験すること。

## 予習・復習

毎回講義終了時に次回講義のキーワードを提示するので、必ずそれらについて各自十分に調査し、ノートをとっておくこと。理解が不十分な点については、授業時間内に質問コーナーを設けているので、質問してほしい。質問は講義時間外でも受け付けるので、遠慮なく研究室を訪問してほしい。

## 評価方法

定期試験、小テスト、レポートの成績を総合して評価する。配分割合は、定期試験 60%、小テスト 20%、レポート 20%とする。

## テキスト

教科書は特に用いない。参考文献については講義内で随時紹介する。